

荷電粒子管理運営委員会

1996年度 第1回議事録

日時： 1996年4月26日（金） 午後6時～8時
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、岡部、千葉、平林、向井、吉田（アシスタント）

I 報告

- 加藤： ・ 3/18 学情センターよりデータベースを提供する件で担当者3名が来札して、情報交換を行い、学情センターの準備が出来しだいインデックスデータベースを提供することとなった。
・ 北大大型計算機センターで96年度のデータベース維持・開発の補助が昨年と同額・同計算時間認められた。
・ 今年度の IAEA advisory meeting の紹へい状がきた。文部省を通じ加藤が参加する旨を伝えたが、旅費がつかないのと日程的な都合がつかないため、大西・千葉が代わりに参加することとした。
・ 天体核物理のデータベースについて久保野、梶野氏らと国内のワーキンググループを作ることを検討して来た。近いうちにその呼び掛けの文章を完成させる予定。
- 千葉： ・ IAEA とのデータ交換について
ロシアとフランスのデータができたので受け取るようにとの連絡があり、取り込んだ。NRDF から送ったデータは、近いうちに処理するとの連絡が入っている。
・ 辞書の更新について
IAEA より雑誌のコードと物理量のコードが新規登録されたとの連絡がきた。
- 吉田： ・ 昨年度のデータは、論文で41編だった。報告書が出来上がり発送作業を開始する。

II 討論

1 IAEA advisory meeting への参加について

大西と千葉が参加する。
大西に旅費・滞在費補助を出すこととなった。

2 今年度の作業体制について

今年度は、次のような体制で作業を進める。

- * コーディング：手塚、小池、青木、奈良、青山
- * マージ・登録：芦沢
- * エラーチェック：吉田
- * コーディングチェック：板垣
- * 今年度作業目標：入力レコード1000レコード、データ量3 MB

3 向井氏の今後の運営委員会参加について

今年度より必要に応じて運営委員会から向井氏に指導・助言をお願いすることとなった。

4 次期委員長について

田中委員長より辞意の申し出があり意見交換を行った。

III 次回運営委員会は、1996年5月27日（月）午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会
1996年度 第2回議事録

日時： 1996年5月27日(月) 午後6時~8時
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、岡部、千葉、片山、平林、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤： ・ 6/1に核研で、天体核データベースのワーキンググループについての第1回会合が予定されている。
・ IAEA advisory meeting(Brookhavun)への参加の旅費・滞在費補助を大西(Berkeleyに滞在中)に送った。
・ IAEA advisory meeting(Brookhavun)への Status Report を千葉と加藤が作成中、千葉が持参する予定である。

II. 討論

1 NRDF の Table におけるエラー表示について

NRDFにおけるディジタイザーにより読み取った data table の誤差表示について議論をした。

2 反陽子のコードについて

コード PN がエラーチェックで通らないことが報告され、議論の後、エラーがあってもコーディング時は、PNで行うこととした。

3 管理運営委員会議事録の助言委員への送付について

今年度から、助言委員の方に議事録をそのつど送るようにする。

4 JCPRG のホームページの作成について

どのようなホームページにするかを今後具体的に検討していくこととする。

5 IAEA advisory meeting(Brookhavun)への JCPRG Status Report 作成は加藤と千葉に一任する。

III. 次回運営委員会は、1996年6月24日(月)午後5時30分~

荷電粒子管理運営委員会 1996年度 第3回議事録

日時： 1996年7月1日(月) 午後6時～8時
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、岡部、千葉、平林、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤： ・ 6/1 に核研で、天体核データベースのワーキンググループについての第1回会合が行われた。
・ 今年の秋に天体核の研究のワークショップを持つ予定。
・ 文部省に今年度の NRDF の報告書を持参した。
・ シグマ委員会 (7/11) に出席の予定。
- ・ IAEA advisory meeting(Brookhavun) への Status Report を千葉と加藤が作成中、
- 千葉： ・ IAEA advisory meeting(Brookhavun) へ大西と千葉が参加し、Status Report を提出し、報告した。

II. 討論

(1) 管理運営委員会の委員長選出について

- * このグループの組織の在り方、助言委員会と管理運営委員会の在り方をより明確にした上で、各委員会の委員長問題を助言委員とも相談しながら考えることとした。

III. 次回運営委員会は、1996年7月29日(月) 午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会
1996年度 第4回議事録

日時： 1996年8月5日(月) 午後6時~8時
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、岡部、能登、片山、千葉、平林、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤： ・ シグマ委員会(7/11)に出席し、JCPRGの1995年度の活動報告を行った。
- 千葉： ・ EXFOR へ送ったDATAで重複しているものがあるCHUKREEV(モスクワ)より連絡があった。
- 能登： ・ NRDFとEXFORのコードの対応を検討している。(千葉・能登)

II. 討論

- (1) 第4回科学技術のための核データ国際会議(トリエステ)について
- * 今年は、論文参加をする方向で検討していく。
- (2) WWWの利用方法について
- * 議事録を載せる。
 - * その他の利用方法については、WWW小委員会で検討を進めていく。

III. 次回運営委員会は、1996年9月9日(月)午後5時30分~

荷電粒子管理運営委員会
1996年度 第5回議事録

日時： 1996年9月9日(月) 午後6時～8時
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、片山、千葉、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤： ・ワーキンググループについて
NRDFデータの品質評価を検討する作業をすすめている。
現在、加藤、千葉、片山が参加。
- ・能登が国外研修に出発した。
1996/9/9～1997/9/8(ミシガン州立大学他)
- 吉田： ・今年度のコーディング終了編数は、40編になった。

II. 討論

(1) NRDFで収集するDATAについて

- * コーディング時の問題点、疑問点を管理運営委員会で検討し、コーディングの基準を作る。

(2) 平成9年度科学研究費の基盤研究A(展開)に申請することとする。

III. 次回運営委員会は、1996年10月21日(月)午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会
1996年度第6回議事録

日時： 1996年10月21日(月) 午後6時～8時
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、岡部、平林、千葉、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤： ・ 「荷電粒子核反応データ利用の国際ネットワークシステムの開発研究」のタイトルで平成9年度科学研究費の基盤研究A(展開)に申請した。
- 千葉： ・ 国際会議(Nuclear Data For Science and Thechnology Trieste,Italy)のアブストラクトを提出した。

II. 討論

- (1) いままでのDATAで、EXFORに変換してIAEAにまだ送っていないDATAについて、送れるデータかどうかを検討し、できるだけ送るようにする作業をすすめる。
- (2) まだ、マージが終っていないDATAについては、至急作業を進める。

III. 次回運営委員会は、1996年11月18日(月)午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会
1996年度第7回議事録

日時： 1996年11月18日(月) 午後5時30分～6時30分
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、片山、平林

I. 報告

- 加藤：
- ・ワーキンググループでの作業について
 - 1 EXFOR 変換を5件について検討・確認し、結果は以下のようになった。
 - ・送付可能 1件
 - ・変換必要無し 2件
 - ・コーディング見直し 1件
 - ・その他(荷電粒子に関係無し) 1件
 - 2 コーディングエラーチェックについて検討した。
 - ・現行のチェック体制(1.文法、2.コード、3.文法+コード+ヘディングの3ステップ)で問題ないことを確認した。
 - ・IAEA meeting の議事録について
IAEA meeting の議事録が届いた。各助言委員へはコピーを送った。また、議事録について訂正を検討、修正案をIAEA に送る予定。
 - ・12月7・8日の天体核反応ワークショップで、核データベースについて報告する予定。

II. 討論

- (1) 報告書編集委員は現在、加藤・能登であるが、能登は在外のため報告書編集は加藤・平林で行う。
- (2) WWWでの情報提供の具体案を片山を中心に検討する。
- (3) アドバイサリーボードの菊地氏の後任についての交渉を加藤に任せる。

III. 次回運営委員会は、1996年12月16日(月) 午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会

1996年度第8回議事録

日時： 1996年12月16日(月) 午後5時30分～6時30分

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、岡部、片山、平林、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤：
- ・ 1996 IAEA advisory meeting の議事録の修正を申し込んだところ、変更は、無理との連絡があった。
 - ・ 天体核反応のワークショップ(12/6,7 熱海)においてNRDFの紹介と天体核データについての新しいデータファイル作成の可能性を報告した。
 - ・ 助言委員の菊池氏の後任を原研核データ室長 長谷川 明氏にお願いした。
 - ・ 96年度のNRDF ANNUAL REPORT の巻頭言を長谷川氏に「国際的核データの現状と日本の役割」の内容でお願い、了承を得た。
 - ・ 文部省の事業費が10年目をむかえて今後の見直しを検討していくため、事業費を使用している各機関にたいして使用状況についての調査があり、回答した。

II. 討論

(1) 96年度NRDF ANNUAL REPORT について

- | | |
|---|-------|
| *まえがき | 長谷川 氏 |
| *97年核データ国際会議発表予定内容 | 能 登 |
| *Intelligent Pad を用いた | 千 葉 |
| WWW上での検索システムについて | |
| *1996IAEA advisory meeting(Brookhaven)の報告 | 大 西 |

(2) WWWでの情報提供について検討した。

III. 次回運営委員会は、1997年1月27日(月)午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会

1996年度第9回議事録

日時： 1997年1月27日(月) 午後6時00分~8時00分
場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者： 加藤、岡部、千葉、片山、大西、平林、吉田(アシスタント)

I. 報告

- 加藤： 北大工学部の知識メディア LAB の研究費で、NRDF の Intelligent Pad を動かすマシンを導入してもらった。このマシンは、核データ専用ワークステーションとして外とのつながりをもつためのサーバーマシンとして使用していくこととした。今後は、年度末の知識メディア LAB の報告書に NRDF も寄与していく事となる。
- 千葉： 知識メディア LAB で導入されるマシンに Intelligent Pad を用いた検索システムを入れる作業を進めていく。
- 吉田： 今年度のデータ収集のコーディング作業が終了した。引続き作業を進めていく。
- 大西： unix 上の NRDF チェックプログラムを hadron と nucl の両方で使用可能となった。
- 片山： WWW で情報を提供するために必要な条件が揃っていることがわかり、具体的に情報提供を検討する段階となった。

II. 討論

1 96年度 NRDF ANNUAL REPORT について

- (1) これまで議論してきたものに加えて次の内容を載せる事とする。
- ・ コーディングおよび Exfor 変換についての Working Group からの報告
(執筆予定 加藤)
 - ・ 天体核データについてを久保野氏に依頼する。
- (2) NRDF ANNUAL REPORT の原稿のメ切は、3月15日とする。

2 知識メディア LAB で導入されるマシンについて

- ・ 検索システムが導入されるまでは、工学部にマシンを置くこととする。
- ・ EXFOR も検索できるようにしていく。

3 www 上で NRDF の蓄積データを近日中に公開する作業をすすめる。

III. 次回運営委員会は、1997年2月24日(月) 午後5時30分~

荷電粒子管理運営委員会

1996年度第10回議事録

日時： 1997年2月24日(月) 午後6時00分～7時30分

場所： 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者： 加藤、千葉、大西、吉田(アシスタント)

I. 報告

加藤： 96年度 NRDF ANNUAL REPORT の「天体核データについて」の原稿を久保野氏に依頼し、承諾を得た。

知識メディア LAB より、来年度の海外派遣、外国人招へいの希望があるかどうかの問い合わせがあった。

千葉： Pad のシステムを新しいマシン (nrdf meme) に移植作業中。NRDF の蓄積データも移植作業を進める予定。

大西： WWW 上での NRDF 公開の暫定版を次のような内容で大西、片山で作成した。

1. 生データの読み方
2. Dictionary Page
3. NRDF File Retrieval Main Page

II. 討論

1 知識メディア LAB からの海外派遣、外国人招へいの希望問い合わせについて

可能であれば5月のIAEA核データ国際会議への派遣および核データ関係の外国人を招へいする希望を出すこととする。

2 1996年度 NRDF ANNUAL REPORT の原稿の確認

- | | |
|---|-------|
| ・まえがき | 長谷川氏 |
| ・天体核データ | 久保野氏 |
| ・Coding および Exfor への変換についてのワーキンググループの報告 | 加藤 |
| ・Coding Editor について | 能登 |
| ・Intelligent Pad を用いた WWW 上での検索システムについて | 千葉 |
| ・1996IAEA 会議報告 | 大西・千葉 |
| ・WWW 上での NRDF 暫定版についての解説 | 大西・片山 |
| ・本年度の入力データについて | 吉田 |

III. 次回運営委員会は、1997年3月24日(月) 午後5時30分～